

2020年、お世話になりました。 今年はNetflix: 頼りきりでした。

冬休み web 限定

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書だより 番外編2

おやすみもりもり書店

R02.12.28(月)

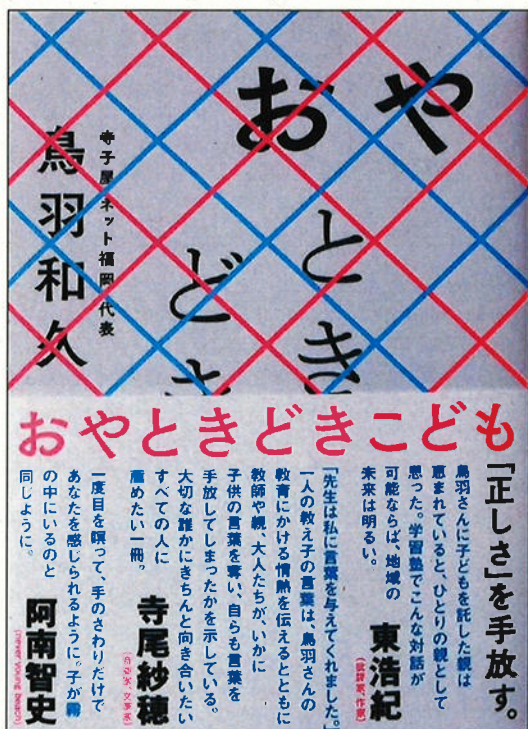
「わからないということ
を実感することで。」

★今回、紹介する本は、『おやときどきこども』（著/鳥羽和久、出版/ナナロク社）です。

今回も、中学生向けというよりは、大人向けであり、親向けの内容でお送りします。「PTA活動」のブログでも紹介されていた本になります。

福岡市で学習塾などを行っている著者が、これまで出会った子どもや親のことをエピソードとして挙げながら、子どもと親の関係性について、厳しく本質を突いてきます（まなざしは優しいけど、大人としても、教師としても、父親としても、非常に身につまされる話ばかり…）。

本の帯に、『「正しさ」を手放す』とありますが、まさにそのとおり。世の中が変わっているのに変わらない価値観があって、それにどっぷり浸かっている自分に気づくことが大切だったり、「我が子をわかろうとする」ことで見えなくなるものがあると自覚することが重要だったりします。「正しさ」や「今までの価値観」をちょっと脇においたときに見えてくるものがあることを教えてくれる1冊。



鳥羽さん、今、甲子園まで進んで本を準備しているらしいです。



「私たちはわからないからこそ手探りで相手の声を求めます。」 (p.242)

「正解に固執しすぎると「いま」にフィットしなくなる。」 (p.106)

「私は孤独を自分で守りたいと思っています。」 (p.96)